

## 5-2-2 短期大学教育改革ICT戦略会議

本会議は、私立短期大学における教育課題の解決策を見出すため、情報通信技術を活用した教育政策、教育改善方法、教育・学習支援体制等の戦略を議論することを目的として実施している。短期大学の社会的役割を強化するため、ICTを活用した戦略的な教育改革を目指して、会議の名称を「短期大学部門FD/IT戦略会議」から「短期大学教育改革ICT戦略会議」に改組した。会議の企画・運営・実施は、短期大学会議ICT戦略運営委員会を設置して対応した。

### (1) 開催要項の決定

22年度は、「社会的・職業的自立を目指した教育戦略」として、就業力向上の実践例、人間力を身に付ける教育のシステムの在り方を踏まえて、地域に必要な人材養成、地域の教育ニーズに対応した多様な教育プログラムの構築など、就業力育成の課題を探求することにした。その中で、一短期大学で賄うことのできない教育課題について、短期大学間との連携、地域社会との連携を踏まえた教育戦略を考察することになり、実際に連携を行おうとしている短期大学から、連携の内容、体制、課題について実情を伺い、理解を深めることにした。その上で、本協会として、学生の基礎学力低下に対応するためにリメディアル教育の教材の共有化の連携構想について、具体的な提案を行うことにした。また、例年同様、教育改革ICT戦略大会と併催することにし、以下の通りプログラムを決定した。

#### 平成22年度 短期大学教育改革ICT戦略会議開催要項

日時 平成22年9月2日（木）12：20～15：00  
場所 アルカディア市ヶ谷（東京、私学会館）

【開催テーマ】社会的・職業的自立を目指した教育戦略

【開催趣旨】

私立短期大学卒業生の16%がニート・フリータである。卒業しても定職につけない若者が依然として多い。また、3年以内に3割程度が離職するなど、総じて卒業生に対する信頼性が低下してきている。大学、短期大学含めて卒業生に自立できる就業力が求められている。このような中で、文部科学省は、学生がそれぞれの専門分野の知識・技能とともに、職業を通じて社会とどのように関わっていくのか、明確な課題意識と具体的な目標を持ち、それを実現するための能力を身につけられるようするため、教育課程の編成、学内の実施体制の確保、社会との連携と協力などの観点から、「社会的・職業的自立に関する指導等（キャリアガイダンス）」を大学設置基準に規定し、義務化する予定としている。

そこで本協会としては、短期大学の社会的役割をより強固なものとするため、地域に必要な人材養成、地域の教育ニーズに対応した多様な教育プログラムの構築などの課題を探求するため、短期大学間との連携、地域社会との連携を踏まえた教育戦略を考察することにした。

【開会挨拶】短期大学会議教育改革ICT運営委員会 戸高 敏之 委員長

【事例紹介】「社会的・職業的自立を目指した教育の実践例」

湘北短期大学 情報メディア学科教授 小棹 理子 氏

「社会に本当に役立つ人材」を2年間で育成するためには、早期に勉学の動機付けを行う必要がある。入学前の段階から社会で求められる力を理解させ、学習目標を明確化するため、読・書・話・パソコンスキルなど体験重視の入学前講座を高校、短期大学、企業の連携により実施している全学的取り組みを紹介する。

【事例紹介】「ICT活用による人間力獲得のためのシステム」

山梨学院短期大学 保育科准教授 野中 弘敏 氏

食物栄養科講師 本長 健介 氏

学生の学ぶ意欲、社会への使命感、探究心、基礎学力、対人関係能力など、専門基礎を支えるリテラシーを整理してわかりやすく概念化するとともに、特別演習科目の設置、知識定着のための自学自習システム構築、学生にリテラシーの獲得を確認させて学習意欲を図る学習成果シートなど、人間力獲得を目指した取り組みを紹介する。

【全体討議】「連携の中で問題解決を図る～教育戦略の探求～」

地域に根差した生涯学習拠点の機能を確保するには、一大学だけでは困難であり、各短期大学が特色を持ち寄っての地域社会との連携・協力が不可欠となることから、コンソーシアムの在り方について事例を踏まえて理解を深める。

就業力を培うために前提となる高校段階の学力水準が必ずしも満たされているとは言い難い中で、短期大学本来の教育を展開していくには、リメディアル教育への対応が喫緊の課題となる。そこで、短期大学間連携の一つの形として、本協会からリメディアル教材を相互利用する構想を提案し、討議を通じて連携による教育の再構築を模索する。

課題提起「短期大学コンソーシアム九州の発足経緯と活動方針」

東海大学福岡短期大学 学長補佐 真下 仁 氏

「短期大学連携によるリメディアル教育の提案」

紹介「リメディアル教育の取り組み」

自由が丘産能短期大学 能率科教授 豊田 雄彦 氏

聖徳大学短期大学部 総合文化学科教授 不破 章夫 氏

湘北短期大学 情報メディア学科教授 小棹 理子 氏

提 案 短期大学会議教育改革ICT運営委員会 三ツ木丈浩 委員

討 議

## (2) 開催結果および今後の方針

- ① 短期大学の運営に危機感が漂う中で、短期大学同士がコンソーシアムを形成し、力を結集して対応していく一つの手段として、リメディアル教育に関する短期大学の連携の可能性を模索した結果、参加が可能な短期大学間で部分的に実験することを目指し、具体的な連携についての話し合いを継続する新しい段階に進むことを確認した。
- ② リメディアル教育の連携の実施については、当面は、問題点の共有や解決に向け



た意見交換といったレベルから始めるのがよい。リメディアル教育以外にキャリア形成支援のための教育や質保証なども含めた連携を希望する大学がある。教員個人での連携への参加の要望はあるが、大学として参加することはすぐには難しい。

- ③ 今年度は早期に全国の短期大学への案内を送ったが、参加者は昨年度より3名少ない37名であったため、案内の送付先や方法などを再度見直し、改善する。

開催結果は巻末の資料編【資料14】を参照されたい。

### (3) 連携問題への取り組み

その後、運営委員会では、短期大学が抱える問題点、連携の意義や実現の可能性について検討すべく、運営委員校の学科長、学長室長、教務部長、一部の会議参加者を招いて意見交換を行ったところ、学生の動機付けにつながるような基礎学力向上の仕組みとして、振り返りの示唆となる情報を企業からICTを活用して発信し、それを短期大学間で共有する産学連携、大学連携の意義を見出した。

そこで、今後、運営委員会において企業も交えた連携の構想案を検討し、来年度の会議で具体案を提示し、連携の内容のイメージを共通理解するために、議論することを計画している。



平成22年度 短期大学教育改革ICT戦略会議